

# 人麿署名歌における異伝

篠塚昌宏

万葉集中において、「二云」とか「或云」とかが冠せられているもの、つまり異伝といわれているものは、第一・二・三表のようにすべてで一種類<sup>註1</sup>二九五ヶ所を占めている。そのうち人麿のものだけに限つてみると、六種類<sup>註2</sup>六四ヶ所であつて全体の約二二パーセントを占めている。

この人麿署名歌の語句の異同は、異伝を示すという説のほかに、人麿の推敲ではないかという説<sup>註3</sup>があり、必ずしも結論を得ていない。この両説は果してどの位の妥当性があるのか。本稿は人麿の歌、特に署名歌を取りあげていわゆる異伝の性質をいくらかでも明らかにするためにいささか考察を試みることにしたい（人麿歌集については付録として少し触れておく）。

註1 一云・或云・一本云・或本曰・一本歌曰・或本歌・或本日・一書曰・或書曰・一書歌曰・伝云の一一種類。

註2 一云・或云・一本云・或本曰・或本歌・或書曰の六種類  
註3 澤瀉久孝博士（「万葉の作品と時代」）・松田好夫氏（「美夫君志」）等に提唱されている説である。

ここにあげた異伝一一種類とは、集中における字面をもつて区別したものであるから、なかには同種類のものとしてまとめることのできるものもあると思う。このことについては後の機会にゆずることにして、区別表示すると第一・二・三表のごとくなる。

人麿署名歌の中には、第一・二・三表からもわかるように六種類六四ヶ所（一云43・或云7・一本云4・或本曰4・或本歌5・或書曰1）の異伝がみられるわけであるが、第二表を見ればわかるように、歌詞における異伝が多く、なかでも『二云』を冠した異伝歌詞が全体二九五ヶ所のうち約半数の一四一ヶ所を占めている。またその分布状態において、巻二のところを見ると、その九七パーセントが人麿歌の中に散見していることがわかる。さらに言えば、人麿署名歌九五首中、六四ヶ所の多きにわたつて異伝が使用されている。この割合でいけば、約五首中に三ヶ所の割合で異伝が現われてくることになるが、そう都合よくはいかない。というのは、七五首もある短歌のなかには、わずかに一五ヶ所しかなく、長歌二〇首のうちには、三八ヶ所も使用されている。しかし、歌詞に異伝をもつ歌は一〇首であり、残り一〇首は、題詞に異伝をもつか、または、二二七・同二二〇の如く長歌であつても全く異伝のないものもあり逆に短歌であつても、二一九八の如く三ヶ所もある場合もある。残りの一三ヶ所は題詞に六、左註に七ヶ所使用されている。試みに題

詞・歌詞・左註の用例のすべてを数でのみ表示すると第四表のようになる。

### 三

さて本稿は、前にも述べた如く、歌詞の異同における異伝説・推敲説の妥当性いかに考察点を求めているので、Bの②の歌詞における異伝が集中にいかなる用例をもつかについて次に考察する。

第五表を見るとわかるように、一般的にいって、上段にある本歌の歌詞の方を用いているのは、万葉第一、二期あたりの作家に多い。一方、下段の異伝歌の歌詞においては、第三・四期あたりの作家が割合に多くを占めている。つまり、同歌詞を用いる作家の上に時代的区別のある事を意味するものである。即ち、歌詞の時代的類型や好尚を認めるなら、人麿署名歌にみられる異伝歌詞は後(第三・四期)の類型や好尚に等しいものであることが予想される。このことをもつとはつきりさせるために次の第六表、さらに判然とさせるために、第七表の如く棒グラフを作成してみる。

この棒グラフによれば、上中下の三グループにわけて考えなければならぬ。すなわち、上段のグループは左側、すなわち本歌詞数が右側の異伝歌詞数より勝っている。これは、人麿の異伝を持つ本歌詞と同じ歌詞が人麿以前の作家の歌詞により多く現われているということの意味する。また、下段のグループは上段の場合とは逆にこの異線は、人麿歌の異伝歌詞と同じ歌詞が、一般的にいって人麿以後の作家の歌詞に現われるということを意味している。

この傾向に従えば、中段のグループに掲げてある作家、歌集は、第三期以後、つまり、当然下段に属すべきものである。いわば例外的な存在であるが、赤人は、人麿と立場を同じくする宮廷歌人であり、人麿と同様、天皇讚歌の長歌を奉っているので、人麿と類似性

のある歌詞を使つても何等不思議はない。また、福麿についても同様に人麿の伝統を受け継いだ長歌歌人で、多く天皇に讚歌を奉っている。したがつて、赤人と同じことがいえる。橋諸兄・葛井子老については、それぞれ国歌大観番号17三九二三、15三六九一の異伝の歌詞をみてみると、天下・露霜(あめしちゆしも)といつた極めて一般的な歌詞である。

以上の理由で、右の傾向を破るものとはならない。

以上述べてきたことから結論めいたことを言わせていただけたら、次の三点があげられると思う。

(一) 異伝と言われるものは後代の歌詞と等しく、第一・二期の歌詞ではない。これはいわゆる異伝が後の伝誦過程に現われたものであつて、決して作者の推敲ではない事を意味する。推敲説はうなづけないことになる。

(二) 右を認めるならば、作者年代不明の巻(七・十・十一・十二)はこのグラフからもわかるように、歌詞に新しい要素が多く含まれると考えないかぎり例外となる。その比は約三対一である。したがつてこれらの各巻は比較的に新しい時代に現形が作られたものと思われる。

(三) 柿本人麿歌集についても同様のことがいへ、人麿期およびそれ以前の歌詞と共通する割合は本歌詞・異伝歌詞ともに少く、後代の歌詞と共通する割合の方が多い。異伝歌詞のほとんどが作者年代不明歌と共通する事は人麿歌集の異伝が口承伝誦によるものである事を意味し、本歌詞も異伝歌詞も共に人麿より後の新しい要素をもっている。

### A 万葉集中における異伝の巻別分布

卷	一云	或云	一本云	或曰	本歌	或曰	書曰	計
1	5(3)	6(6)						11(9)
2	43(39)			1(1)	2			46(40)
3	9(1)	1	3(3)		1			14(4)
4	2							2
5	8	1						9
6	1							1
7	4		1					5
8	7							7
9	3							3
10	13	1						14
11	10				6			16
12	10				12			22
13	1			4		1		6
14	2				4			6
15	7							7
16								
17	3							3
18	8							8
19	4							4
20	1							1
計	141(43)	9(6)	4(3)	5(1)	25	1		185(53)

(第二表) 歌詞における異伝

卷	或云	一本云	或曰	本歌	或曰	書曰	計
1	1		3	1	1	1	7
2			7(4)		2	1(1)	10(5)
3		1	5(1)				6(1)
4							
5							
6			2				2
7							
8					1		1
9							
10							
11							
12							
13			7			1	8
14							
15							
16	2		1				3
17							
18							
19							
20							
計	3	1	25(5)	1	4	3(1)	37(6)

(第一表) 題詞における異伝

( ) 内は人麿署名歌中にみられる異伝数

卷	一云	或云	一本云	或曰	本歌	或曰	本歌	或曰	書曰	或曰	書曰	一歌	伝云	計
1		1							2					3
2				2(2)		1								3(2)
3		4	1(1)	2(1)		2								9(2)
4														
5														
6		4		1		2								7
7														
8	1	1												2
9		5(1)		2										7(1)
10				1		1								2
11		1				4	1					2		8
12					1	2								3
13		1		1		2					2			6
14					1	9								10
15														
16		1											12	13
17												1		1
18		1												1
19														
20														
計	1	19(1)	1(1)	9(3)	2	23	1	2	2	2	2	2	13	75(5)

(第三表) 左註における異伝

註1 以上三表における ( ) 内の数字は、人麿署名歌における異

伝分布である。

註2

5(2)というのは、集中全体で5あるうち2ヶが人麿署名歌のものであることを意味する。したがって、6(6)ということは、すべてが人麿署名歌に属するものであるということになる。

(第四表)

## B 人曆署名歌における異伝の分類表

巻	① 題詞における異伝のある歌番号	② 歌詞における異伝のある歌番号	③ 左註における異伝のある歌番号
一		二九⑥・三一②・三八	
二	一三四・二三八・一七〇・二〇二・二二三	一三一③・一三五④・一三六①・一三七① 一六七⑤・一九四②・一九五①・一九六② 〇七②・二〇八③・二一〇③・二一九②・二一八	一六九・一九五
三	二四一	二五〇・二五二・二五三・二五五	一三五・二五六
九			一七六二
計	6	53	5

註 二九⑥の⑥は、二九の歌のなかに六ヶ所の異伝があることを示す。

C 人曆署名歌における異伝  
(第五表) 使用例

万葉集歌番号 (国歌大観番号)	短歌の部		立部		立部		立部					
	※ 本 歌 詞	部	作者	万番	歌詞	部立	※ 異 伝 歌 詞	作者	万番	歌詞	部立	
1 三三 一	志賀能大和太	雑										
2 一三 六	亦母相八毛	相	柿本人曆	2 一九 五	亦毛将相八方	挽	比良乃					
	妹之当乎相						将会跡母戸八	作者 柿本人曆歌集	10 二〇 二六	妹当者	秋雑	
							A一云系					

上本歌詞の集中における使用例

上異伝歌詞の集中における使用例

2 二二八	2 二〇八	"	"						2 一九八	"	2 一九七	2 一九五	2 一三七	"
志我津子等何	山道不知母	御名忘世奴	念 八 方						明日谷將見等	能杼爾賀有万思	進留水母	野過去挽	勿散乱曾	過來計類
"	"	"	"						"	"	"	"	"	"
志我津之子我	路不知而	御名不所忘	念 香 毛						明日左倍將見等	与杼爾賀有益	進留水乃作者未詳	乎知野爾過奴	知里勿乱曾	隱來計留
			作者年代不明			大伴家持	大伴坂上大娘	大伴三衣	柿本人麿				高橋蟲磨歌集	
			13 三三三九念	12 三三五〇念	12 三一六一	12 三一三二念	12 三〇五五念	4 六一一	4 五八三	4 五五二	4 四九九	9 一七二四流	9 一七四七落	
			鴨	戶鴨相	"	鴨	可母寄	可聞	可母	可毛	鴨相	水之雜	莫乱雜	
			"			羈	"	"	"	"				

											"	"	3二五〇		3二五三
											舟近著奴	野島之埼爾	敏馬乎過		可古能島所見雜
御藤之藤 井原役原 宮民宮											"	"	作者未詳 または人麿		
1五二 麓 妙 乃 "											"	"	15三六〇六		
											奴布弥知可豆伎	野島我左吉爾	敏馬乎須疑氏		
											伊保里為吾等者	野島我埼爾	処女乎過而	B一本云系	湖見
栗田女郎	紀女郎	山口女王	丹比笠麿	高橋朝臣	大伴坂上郎女	大伴三中	笠金村歌集	柿本人麿	持統天皇	"	"	作者未詳 または人麿			
4七〇八	4六四五	4六一四	4五一〇	"	3四八一	3四四三	2二三〇	2二二三	2二一〇	2一九九	1二八	"	"	15三六〇六	
白細之"	白細之"	白細之"	白妙乃相	白細之"	白妙之"	白細之"	白妙之"	白妙之"	白妙之"	白妙之"	白妙能雜	波伊保里須和礼	野島我左吉爾	而乎等女乎須疑	

3  
二五二  
荒

梶  
雜

山上 憶良	持統 天皇
5 九〇 一 龜	2 一五 九 荒
妙 能 雜	妙 乃 挽

白

梶

乃

柿本人麿歌集	作者年代								柿本人麿歌集	田辺福麿歌集	作者未詳	柿本人麿歌集	大伴旅人	山上憶良			
	不 明	11二六〇九	11二六〇八	11二五八	11二四一	10二三二	10二〇三	5九〇四						5八〇四			
12二八四六	11二八〇七	11二八一二	11二六九〇	11二六八八	11二六二二	11二六〇九	11二六〇八	11二五八	11二四一	10二三二	10二〇三	9一八〇〇	9一六七五	7二二九二	6九五七	5九〇四	5八〇四
白細布	白細乃寄	白細布之問	白細布乃	白細布之寄	白細布乃	白細之	白細乃	白細布乃	白細布正	白妙之冬雜	白梶秋雜	白細乃	白梶之雜	白梶施	白妙之	志路多倍乃	之路多倍乃雜

	山部 赤人	
	6 九三八 荒	
	妙	
	"	

娘 子	中 臣 宅 守	作者未詳 または人麿	不 明 作 者 年 代												
			15 三七五 一之路多 倍乃	15 三七二 五思漏多 倍乃	15 三六〇 七之路多 倍能	14 三四四 九思路多 倍乃	13 三三七 四白 椽乃	13 三三五 八白木 綿之	12 三三四 三白 椽乃	12 三二五 白 妙乃	12 二二八 二白 妙之	12 三一八 一白 細之	12 三一三 三白 細問	12 三〇四 四 寄	12 二九六 三 白 細之



2 一三二	1 三三八	万葉集歌番号 (国歌大観番号)		(一) 長歌の部	3 二五五	"	"								
		瀧無等相	黄葉頭刺理雜		本歌詞部立	倭島所見	鈴木釣	藤江之浦爾							
		作者	上本歌詞の集中における使用例		"	"	山部赤人	作者未詳	または	作者未詳					
		万番		15 三六〇八	"	15 三六〇七	6 九三九	藤江能字良爾	鷹	15 三六〇七	安良多倍乃				
		歌詞		由夜麻等思麻見	須受吉都流	藤江能字良爾	藤江乃浦爾	雜							
機無登	黄葉加射之柿本人麿	異伝歌詞 A一云系		家門当見由	伊射利為流	藤江能浦爾	山部赤人	作者未詳	大伴家持		大伴池主				
		作者	上異伝歌詞の集中における使用例	"	"	または人麿	山部赤人	作者未詳	20 四四〇八	之路多倍乃	18 四一一一	"	17 三九九三	之路多倍能	
	2 一九六	万番		15 三六〇八	伊射里須流	藤江能字良爾	藤江乃浦爾	伊射里須流	見由	伊射乃安多里	"	17 三九四五	思路多倍乃	15 三七七八	"
	黄葉挿頭挽	歌詞	部立												

2 一三五	"			"					"							
屋	依宿之妹乎			玉藻成					溷者無軀							
上	"			"					"							
乃山乃	"			柿本人麿					之藤原民宮							
乃	"			大伴家持	不作者年明代											
				19四二四	11二四八三	2一九四	2二三八	2一三五	1五〇							
				"	"	"	"	"	玉藻成							
					寄	挽	"	"	雜							
室	妹之手本乎			波之伎余思大伴家持					磯者無軀							
上	不作者年代			大伴旅人	大伴家持	柿本人麿	山上憶良									
山	11二六八	11二五四七	10二二三	5八五七	4七八四	2一三八	20四四九	19四二一	18四一〇	18四一〇	17四〇〇	17三九六	17三九六	17三九五	5七九六	13三二五
	妹之田本乎	"	妹之手本乎	伊毛我多毛等	"	妹之手本乎	波之伎余之	波之伎餘之	波之吉与思	波之吉余之	波之吉餘之	波之伎与余之	波之吉与志	婆之伎余思	伴之伎与余之	磯者無友
	寄	正	秋相	雜	"	相									"	雜

"											"	"	"	2 一六七天
天											上	神	八	攝別天
下											座	上	而	照
"											奴	"	"	挽
														大伴家持
18	18	17	6	6	6	5	5	2	2	2	持	柿	1	18
四	四	三	一	一	一	八	八	"	一	一	統	本	二	四
一	〇	九	〇	〇	〇	九	七	"	九	六	天	人	二	二
二	九	三	五	五	四	四	九	"	七	二	皇	曆	五	五
安	"	"	"	"	"	天	阿	"	"	"	"	"	天	安
米	"	"	"	"	"	下	米	"	"	"	"	"	下	麻
能	"	"	"	"	"	雜	能	"	"	"	"	"	雜	泥
之	"	"	"	"	"		志	"	"	"	"	"		良
多	"	"	"	"	"		多	"	"	"	"	"		須
							雜							
食											座	神	八	指
国											爾	登	重	上
											之		雲	
											可		別	
											婆		而	

"	"	"	2 一九六	"	2 一九四	"							
片 恋 婦	然 有 鳴	石 橋	石 橋 渡	相 屋 常 念 而	夜 床 母 荒 良 無	其  故 挽							
"	"	"	"	"	"	大 伴 家 持		柿 本 人 曆		大 伴 家 持			
						19 四一八	19 四一五	8 一六二	2 一九六	2 一九四	20 四四六	20 四三六	19 四二五
						曾許由惠爾	曾已由惠爾	其故爾	"	其	安米能之多	阿米能之多	天
								秋相	"	故挽			下
片 恋 為 乍	所 已 乎 之 毛	石 渡	石 浪 渡	公 毛 相 哉 登	夜 床 母 阿 礼 奈 牟	刺 竹 之							
大 伴 旅 人	大 伴 池 主	置 始 東 人				作 者 年 代 不 明	中 臣 宅 守	作 者 年 代 不 明	曆 歌 集	田 辺 福	石 川 足 人	柿 本 人 曆	
8 一 四 七 三	17 四 〇 〇 六	17 三 九 九 三	2 二 〇 四			16 三 七 九 一	15 三 七 五 八	11 二 七 七 三	6 一 〇 五 〇	6 一 〇 四 七	6 九 五 五	2 一 九 九	
片 恋 為 乍	"	曾 已 乎 之 毛	其 乎			刺 竹 之	佐 須 太 氣 能	刺 竹	竹 乃	竹 之	刺 竹 之	刺 竹	
夏 雜		霜 挽							"	"	雜	挽	

"	"	"				"	"	"	"	2	"
念	冬	著	野	春		恸	小	国	治	2	朝
麻	乃	而		去		流	角	乎		九	
低	林	有		来		麻	乃	治	賜	忌	鳥
"	爾	火	每	者		低	音	跡	"	之	
"	"	"	"	"		"	母	"	"	伎	鳴
				"				"	"	"	"
				不	鳴	額		大		大	高
				作	足	田		伴		伴	橋
				者	人	王		家		家	朝
				年				持		持	臣
				明				19		9	
				代				四		一	
				13	10	10		二		七	
				三	一	一		四		八	
				三	八	八		二		五	
				二	三	三		四		五	
				一	二	〇		四		五	
				"	"	"		国		"	朝
				"	"	"		乎		"	鳥
				"	"	"		治		"	之
				"	"	"		跡		"	雜
				雜	"	春				挽	
				雜	"	雜					
諸	由	春				聞	笛	国	弘	由	朝
人	布	野				惑	乃	乎	賜	遊	霧
士	乃	燒				麻	意	掃	而	志	
師	林	火				低	波	部		計	
御		乃						等		札	
通										禮	
										母	
											笠
										大	女
										伴	郎
										池	
										主	
											不
											作
											者
											年
											明
											代
											17
											四
											〇
											〇
											八
											安
											佐
											疑
											理
											能
											乃
											挽
											夏
											雜
											相

2 二〇七 声 爾 聞 而	"	"	"	"	"										"	"	"
	然之毛將有登	相競端爾	去鳥乃	消者消倍久	露霞之										乱	大	聞
	"	"	"	"	"										而	雪	之
		大伴家持	"	不作者 年 明代	大伴家持	葛井子老	不作者 年 明代	田辺福麿集歌	大伴家持	大伴三中	柿本人麿						
		19 四一六六	13 三三二六	11 二四五八	19 四二二一	17 四〇一一	15 三六九一	14 三三八二	12 三〇四三	6 一〇四七	3 四六六	3 四四三	2 一三一				
		有争波之爾	鳥	消者 可消	露	都由思 母能	都由之 毛能	都由思 母能	"	"	"	露	霜				
		挽	之	相寄	之			相	寄	雜	挽	乃	相				
声 耳 聞 而	如是毛安良無等	安良蘇布波之爾	打 蟬 等	消者消言爾	朝 霜 之										曾知余里久礼婆	霰	見惑麻低爾
			等柿本人麿		不作者 年 明代			歌柿 本人 集	不作者 年 明代								
			2 二一〇		12 三〇四五			11 二四五八	7 一三七五								
			打 蟬 等		朝			朝	朝								
			挽		霜			霜	霜								
					乃			寄	譬								

"	"	"	"	"	"	1 二九	"	2 二〇七	2 二〇
御 念 食 可	平 山 乎 越	倭 乎 置 而	天 爾 滿	所知 食 之 乎	日 知 之 御 世 從	雜	耳 乎 挽	打 蟬 等	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
柿 本 人 曆	持 統 天 皇						作 者 年 代 不 明	11 二八 一〇	音 耳 乎 問
2 一六 七	2 一六 二								
御 念 食 可	所 念 食 可								
"	挽								
所 念 計 米 可	平 山 越 而	倭 乎 置	虛 見	所知 食 來 大 伴 家 持	日 知 之 自 宮	C 或 云 系	名 耳 大 伴 坂 上 郎 女	B 或 本 曰 系	宇 都 曾 臣 等 柿 本 人 曆
	不 有 者 年 代 明	大 伴 家 持	作 者 未 詳	作 者 年 代 不 明	山 上 憶 良	雄 略 天 皇			
	13 三二 四〇	13 三三 三六	19 四二 六四	13 三三 三六	5 八 九 四	1 一	20 四四 六五	18 四〇 九四	6 九 六 三
	檜 山 越 而	寧 樂 山 越 而	"	虛 見 都	虛 見 津	虛 見 津	流 之 良 志 亮 之 祚	流 之 良 志 亮 之 家	名 耳 乎 雜
	"	雜		"	"	雜			宇 都 曾 臣 等 挽

"				"	"	"	
見者悲毛				春日之霧流	茂生有	春草之	
"				"	"	"	
大伴家持	作者年代不明		田辺福曆歌集	柿本人麿歌集	作者年代不明	柿本人麿	作者年代不明
	12三〇九五	12一九六七	9一八〇一	9一七九六	10一九二〇	3二三九春草之	13三三三二六
19四一四九	見者悲毛	見者哀裳	"	見者悲毛	"	"	"
見者可奈之母	"	寄	"	挽	雜	春相	"
見者左夫思母				春日香霧流	繁成奴留	夏草香	
歌柿本人麿集		柿本人麿					
9一七九八		2二二八					
見佐府下		見者不恰毛					
"		挽					



作家名	本歌の歌詞 を用いた数			異伝歌の歌詞 を用いた数		
	長	短	計	長	短	計
雄略天皇	1		1			
額田王	1		1			
持統天皇	2	1	3		1	1
高市古人	1		1			
藤原宮御井歌			1			
藤原宮之役民歌	1	1	2			
鴨足人	1		1			
河辺宮人	1		1			
柿本人麿	13	8	21	6	14	20
柿本人麿歌集	1		1	2	5	7
置始東人				1		1
丹比笠麻呂					1	1
作者年代不明	15		15	13	29	42
山上憶良	1	1	2	2	2	4
作者未詳		7	7	1	9	10
大伴旅人				2	1	3
大伴坂上郎女				1	1	2
山部赤人		2	2		1	1
笠金村歌集	1		1		1	1
石川足人				1		1
大伴三依					1	1
大伴三申	1		1		1	1
土師御通				1		1
高橋藏鳥歌集					1	1
娘					2	2
笠女				1		1
橘諸兄	1		1			
紀女					1	1
大伴坂上大娘					1	1
山口女王					1	1
葛井子老	1		1			
大伴家持	17		17	15	4	19
大伴池主				2	3	5
粟田女郎					1	1
中臣宅守				1	1	2
高橋朝臣	2		2		2	2
田辺福麿歌集	5		5	2	1	3
計	66	21	87	51	85	136

(第七表)

作者別分布表 (2)

異伝歌詞数	使用作家名	本歌詞数
1	雄略天皇	1
1	額田王	
3	持統天皇	
1	高市古人	
1	藤原宮御井	
2	藤原宮之役民	
1	鴨足人	
1	河辺宮人	
	杵本人曆	20
2	山部赤人	1
1	橘諸兄	
1	葛井子老	
5	田辺福麿歌集	
	置始東人	1
	丹比笠麻呂	1
2	山上憶良	4
	大伴旅人	3
	大伴坂上郎女	2
	石川足人	1
	大伴三依	1
	土師御通	1
	娘女子	2
	笠女郎	1
	紀女郎	1
	大伴坂上大娘	1
	山口女王	1
	大伴池主	5
	粟田女娘子	1
	中臣宅守	2
1	大伴三中	1
17	大伴家持	19
2	高橋朝臣	2
1	笠金村歌集	1
	高橋蟲麿歌集	1
15	杵本人曆歌集	7
	作者年代不明	45
7	作者未詳	10

(第八表) 人麿歌集における歌詞の使用例(短歌)

11 二三五四念				11 二三五三人見点鴨施				10 二〇三二恋毛不過者		万葉集歌番号 (国歌大観番号)	
乱而施				夜深往久毛				秋雜		本歌詞	
不 明				中臣女郎				作者年代不明		上本歌詞の集中における使用例	
作者年代				大伴坂上郎女				10二〇三二		作者	
12二九六九				田辺福麿歌集				10二〇三三		万番	
"				9一八〇四思				恋毛不過者		歌詞	
念乱而				作者年代不明				秋雜		部立	
"				10二〇九二							
"				11二七六五							
"				11二六二〇思乱而							
秋雜				11二三六五念乱而							
思多鷄備低				11二三三五三人見点鴨施							
				人見豆良牟可				恋毛不尽者		異伝歌詞	
								作者年代不明		作者	
								10二〇六〇左夜曾明二来		万番	
								10二二四五恋裳不尽者		歌詞	
								秋雜		部立	
								12二九〇六左夜曾明家流正			

	"	11二四八〇人	"	11二三六九公		"	12二九四七	11二四九六我	11二四七二石									
	我	恋	戀	欲	目	応	忌	忘	穗									
	麗	皆	嘆	尚	正	鬼	尾	哉	菅									
	"	寄	"	正	"	"	正	"	寄									
		作者年代不明				柿本人麿歌集		日並皇子尊										
		11二四六八				11二四四一		大伴清繩										
		人				一忌		集										
		皆				物		9 一七七〇										
		知				矣		吾忘礼米也										
		寄				寄		相										
	繼而之念者	人知爾家里	曉來鴨	公矣思爾	B或本歌系	家当見	出	所忘目八方	石小菅									
大伴家持	"	"	"	作者年代不明			行	作者未詳										
4七八四	"	10二〇〇二人	15三七二四	12三三〇八			作者年代不明	8一五三一										
打乍二波	告	思	安氣爾家流香	君念			11二五五一	10一八八〇										
相	"	爾來	聞	爾悲			出曾行之	忘目八方										
	"	秋雜					正	也毛										
								春雜										
								秋雜										

"										"	12 二八四八直	
夢										有	不	
谷										諾	相	
"										"	正	
不 明		作者 年代		柿本人麿歌集		作者年代不明		大伴家持		皇子尊舍人等	大伴家持	作者未詳
13 三三八〇	12 三二四二	12 二九五九	12 二九五八	12 二八五〇	11 二五九五	11 二五四四	4 七八四夢	4 七七二夢	4 七四九夢	2 一七五夢	19 四二四正	5 八〇九多陀爾阿波須
"	"	"	"	"	"	"	谷	爾 谷	二 谷	爾 谷	不 遇	雜
相	巖	"	"	"	"	正	"	"	相	挽		
夢										諾	寤	
左										毛		
倍										不		
											者	
											大伴旅人	
										作者年代不明	柿本人麿歌集	
										作者年代不明	者	
										13 三三八〇	12 二九五九	
										12 二八五〇	11 二六二一	
										11 二五四四	5 八〇七	
										卯	現	
										管	寤	
										庭	宇豆都仁波	
										相	者	
										寄	正	
										寄	正	
										寄	雜	

桜楓社新刊案内

日本ジャンル別文学史全10巻  
第1回配本 好評発売中  
斎藤清衛著 定価 2800円

日本文芸思潮全史

近代短歌 <人と作品>  
本林勝夫著 定価 580円  
斎藤茂吉

俳句シリーズ <人と作品>  
伊沢元美著 定価 680円  
尾崎放哉

桜楓社近刊案内

一子約募集中一

佐野正己著『万葉作家と風土』  
金子武雄著『古事記神話の構成』  
徳光久也著『上代日本文学史』  
福田良輔著『古代語文ノート』  
太田善麿著『古代日本文学思潮論』4

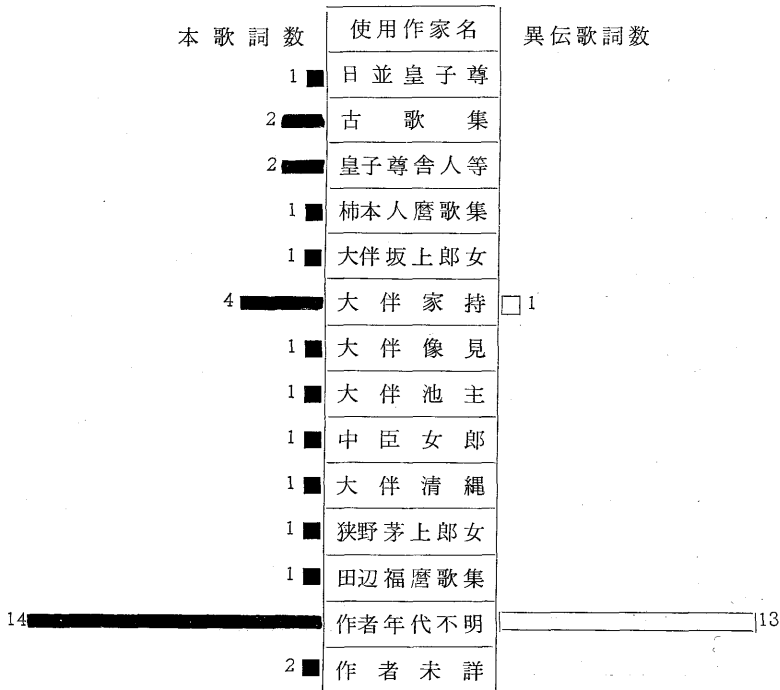
東京都千代田区 桜楓社出版 電話(331)8236  
西神田2の29 振替東京46863

10 二 三 一 五	枝 母 等 乎 乎 爾		"	12 二 八 六 三	浅 葉 野	12 二 八 六 〇	水 底 不 絶	
冬雜			"	"	"			
作者 年代 不明	大 伴 像 見							作 者 未 詳
10 二 二 五 八	枝 毛 十 尾 爾	10 二 一 七 〇	枝 毛 十 尾 丹	8 一 五 九 五	枝 毛 十 尾 二			15 三 七 二 四
秋相	"	秋雜						伊 米 爾 太 爾
	枝 毛 多 和 多 和		C 或 云 系	立 志 奈 比 垂	誰 葉 野 爾	水 尾 母 不 絶		

作家名	本歌の歌詞を用いた数	異伝歌の歌詞を用いた数
日並皇子尊	1	
古歌集	2	
柿本人麿歌集	2	
皇子尊舎人等	1	
大伴坂上郎女	1	
大伴家持	4	1
大伴像見	1	
大伴池主	1	
中臣女郎	1	
大伴清繩	1	
狭野茅上郎女	1	
田辺福麿歌集	1	
作者未詳	2	
作者年代不明	14	13
計	33	14

(第九表)

作者別分布表 ①



(第十表)

作者別分布表 ②